

本研究は、オランダ・英国で行った博物館セキュリティの調査研究を基に、その在り方についてを論じるものである。主要情報ソースは、「Museum Security and Professionalism」と題しオランダのラインワルト・アカデミーへ1997年に提出した修士論文(博物館学)である。現在の博物館の抱える問題に、危機管理は明らかに、その一端を占めており、根本的課題は、1997年と変わらないものと考え、今回、発表を行うこととした。

ICOMによれば博物館は博物館の「もの」「建物」「人々」を保護することを目的の一つとしている。しかしながら、博物館セキュリティの問題はその真の重要性はほとんど評価されていない。博物館セキュリティとは何か、博物館で起りうる危機と危機管理における問題点、博物館学とセキュリティの接点について、以下に述べる。

まず第一に、「セキュリティ」という用語には一般的に広く認知されている共通の定義はない。そのため、「セキュリティ」の定義付けが必要である。International Committee on Museum Security (ICOM博物館セキュリティ国際委員会)では、「セキュリティとは博物館のコレクション・建物・所有財産・職員や来館者とその所持品を安全に警備保護することである。」とされている。つまり、セキュリティという用語には、防犯・防災・環境と安全の保護が基本的な意味として定義されているという解釈が可能である。次に、危機管理の「危機」と言う言葉であるが、英語では、複数の言葉で表現されている。「risk」、「catastrophe」、「crisis」、「disaster」、「hazard」がその一例である。各単語に意味の相違がある中で、少なくとも、これら全て意味を考慮し危機管理という概念を捉える必要がある。「危機」は、日本語で言うところの「危機」や「災害」の一言では、言い表せないということを理解しておきたい。

第二に、博物館で起る危機(=災害)とは何かであるが、自然要因と人的要因により引き起こされるものに大別される。前者には、火災・台風・洪水・地震などが一例として挙げられる。後者は、主に犯罪行為に起因するもので、盗難・スパイ行為・職務妨害・戦争・テロ活動・放火などが一例として挙げられる。また、その他の要因による建物の倒壊・整備不良・偶発事故なども両要因の中間的又は複合的なものであるといえる。更に、前者の場合、適切な管理・事前の計画が被害を軽減する最大の方策であり、後者の場合では、博物館が未然に犯罪行為を防止しようと考えるならば、犯罪と情報公開に関して情報管理体制の整備が必要不可欠である。

周知の通り、博物館は常に災害の恐怖にさらされている。ここで、考えられる問題点の一つとして、博物館上層部の管理職等にこの問題の認識を促すことの困難さが挙げられる。つまり、財政難にあえぐ多くの博物館にとって、将来、起るか起こらないか予測のつかない前述したような多種の災害についての対策を立てる時間・場・予算の必要性を知らせる事は困難である。その結果、通常管理体制下で博物館職員による災害への迅速な対応は限りなく不可能に近くなる。実際の危機管理には、組織の中で起こりうるであろうリスクを最小限に留めておくために、館の各担当部局と関わる行政機関がお互いの役割を事前に調整分担する体制を整える必要がある。

ウィレムス氏(オランダ法務省(当時))による、「Museological Security」という造語がある。この用語は、博物館におけるセキュリティの基礎、つまり、物質的(=建築物)・電氣的(=設備面)・人的(=マンパワー)の3要素を博物館セキュリティの基本概念として初めて、表したものである。これらに、更に、危機分析・保険というセキュリティ手段を加え、博物館におけるセキュリティの骨格をなすものとする。しかしながら、これらは、博物館内に視点を置いた「Museological Security」であり、この他に博物館の外側に視点を置いた「Museological Security」を提案するものとする。その中には、館内での部局間協力、国内外における博物館間、或いは、関連する国際機関や国家との横断的相互協力を含む、地理的広がりを持つダイアグラムが考えられる。博物館学と

セキュリティーの接点は、正に、この「Museological Security」という言葉に集約されていると考えられる。そして、博物館学を専攻した者や、博物館専門職員が、博物館マネジメントの分野の中に、更に、この概念を取り入れ、その研究と発展を進めることの必要性があるのではないかと考える。

最後に、セキュリティーに対する認識の欠如という問題を解決するための提案として、博物館における危機管理専門官・セキュリティー専門職員の適切な配置を持って、博物館セキュリティーへの十分な予算と権限が与えられることが博物館の今日と未来にとって、重要且つ急務であるとする。